

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 金上仁友会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護 タンポポ
所在地	(〒 981 - 1505) 宮城県角田市角田字中島上 183 番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

住み慣れた地域、在宅で安心してその人らしい生活が継続できるよう、訪問看護・訪問介護を中心に、また必要に応じて通いや宿泊のサービスを組み合わせ、馴染みのスタッフが支援致します。医療ニーズの高い利用者様にも病状に合わせて対応が可能です。

医療度や看護の必要性が高く、病院を退院し直接自宅へ帰る事が困難と思われる方への支援も訪問看護を中心に、安心して在宅生活が出来るように支援しています。経管栄養、喀痰吸引、ストマ、留置カテーテル、在宅酸素療法、癌末期の看取りなどにも対応しています。

母体の金上病院が協力医療機関であり、急変時やその方の病状に合わせ、訪問診療や緊急時の往診が可能であり安心して生活できる体制になっています。

ケアサービスの他、季節感を感じ楽しんで頂けるよう四季折々の毎月の行事やレクリエーションなどにも楽しく取り組んでいます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦_____2019年_____11月_____1日	従業者等自己評価 実施人数	(_____19_____)人	※管理者を含む
----------------	-----------------------------	------------------	-----------------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦_____2019年_____11月_____15日	出席人数(合計)	(_____12_____)人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(____5____)人 <input type="checkbox"/> 市町村職員(____2____)人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(____1____)人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(____2____)人 <input type="checkbox"/> 利用者(____0____)人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族(____1____)人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者(____1____)人 <input type="checkbox"/> その他(_____)人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし	初回の為、記載なし

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間のスキルアップや情報共有が出来ていると感じる。今後も継続して実践してほしい。 ・アセスメント等の共有など看護職、介護職がより連携を図っていけるように改善を今後も図ってほしい。 ・サービスの特徴など全職員が共通認識のもと実践できるように研修などで確認するのもいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに職員個々のスキルアップが図れるように、事業所内の研修、勉強会の充実化、日常の個々の目標に対する進捗状況の確認を毎月の定期ミーティングにて行う。 ・避難訓練、消防訓練を継続し、その都度計画の見直しを行い、精度を上げていく。また地域の訓練へ参加したり、事業所の訓練への参加の呼びかけを行い、地域の方々とより連携を図れるよう取り組む。夜間想定避難訓練、通報訓練を実施し状況に合わせた対応ができるようにしていく。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・本人のニーズを適切にアセスメントする為に、これまでの生活履歴や生きがい、生活状況を含めた心身機能を的確により把握できるよう今後も宜しくお願いします。 ・利用者についても申送りは良く出来ていると思います。 ・本人、家族との話し合いや看護、介護職の中でアセスメント、計画情報の共有がなされていると思う。今後も共有できるよう、話し合い等をより充実して頂ければと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族のニーズを基に、看護・介護の両側面でのアセスメントから計画、支援へしっかりと繋げられるよう、情報共有として職員間の申し送り、連絡ノートの活用、定期的にサービス提供記録見直し、改善に努める。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所における介護保険外サービスや地域の見守り、サロンなどの地域資源、家族支援や本人の役割などの事例紹介など情報交換できると良いと感じました。 ・運営推進会議を活用しながら、地域の情報収集を行ったり、情報発信をしていると思う。今後も更にインフォーマルサービスの活用が出来るようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のインフォーマルサービスの情報について、運営推進会議で情報収集、交換する機会を設けていく。 ・利用者、家族のニーズに応じて、ケースカンファレンス等でインフォーマルサービスの活用について検討する ・運営推進会議の議題について、会議を通して必要な事項や報告として聞きたい事等の意見、ご要望を反映し開催していく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の議題についても今後検討してみたらどうかと思う。 	
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して行ってほしい。 ・地域の情報の共有ができ、今後職員間でも地域の課題についても考えられる機会をもっていただけたらと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作成した運営推進会議の記録、市の広報紙、介護計画など職員が所内での閲覧した確認ができるよう、サイン欄を設け、情報共有がよりできるようにする。また、理解をより深める機会を計画し、定期ミーティング時実施する。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の目標に沿って達成できる様に努力している様子がわかります。今後も利用者が安心して生活できるようにお願いします。 ・多職種連携を取りながら、利用者が安心して利用できさらにサービスを提供して行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取り組みを継続し、ニーズや計画目標を定期的に見直し、達成に向け取り組んでいく。 ・サービス、支援内容を必要に応じ、随時見直し、サービス利用による安心感を得られるようにする。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまりで きてい ない	全く でき て い ない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○				質問はなし ✓ ①~⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①~⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」	
		[具体的な状況・取組内容] <ul style="list-style-type: none"> ・看護小規模多機能型居宅介護の理念を全職員が閲覧できる場所に掲げている。 ・法人の理念、看護小規模多機能型居宅介護の理念の2つを掲げ、毎朝唱和している。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			<ul style="list-style-type: none"> 職員間での理解をより深まる様に今後も実践を通して行ってほしい。 厳しめの評価であると思いますが、サービスを提供する上で、重要だと思うので共通認識を持っていただければと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			<ul style="list-style-type: none"> 勤務調整も含めて、仕組みの構築だと思うので、改善してほしい。 職員間での協力、話し合い等で補えるのではないかと思います。 研修を数回に分けたりと、調整や工夫を今後もできる限り行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			質問はなし	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ケア内容や適性などから調整して確保している。					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント等についても共有してほしい。 ・利用している方達にとって何より安心できることだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・情報を共有する仕組み(朝のミーティングや申し送り簿、ノートの活用)、毎月、随時、定期ミーティングしており機会は十分に確保できている。					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・要望、助言などに、よく答えられていると思います。 	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・頂戴した助言はミーティング等で情報共有し反映している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている	○				<p>・職員が定着している事も利用する方達にとっての安心に繋がると思います。働きやすい環境は素晴らしいと思います。</p>	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<p>質問はなし</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・夜間を想定した訓練も行って下さい。 ・災害も色々なパターンがあるので、訓練の大切さと、そこから臨機応変に対応できるように今後もお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・法人で様々な施設があり、緊急時にすぐに連携できるのはとても心強いと思う。 ・先日の予想外の台風時には角田市でも被害があった中、スムーズな避難誘導が出来た事を聞き安堵しました。施設以外の近隣の方が助けを求めた場合は受け入れは可能だろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> 自立した日常生活を営むための計画を作成する上で、利用者の趣味や生きがい、家族などでの役割を含めた情報収集をしっかりと行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種間で共有されている			○		<ul style="list-style-type: none"> 両職種間での共有は大切ですので、今後も進められるようにお願いします。 どのように取り組むのか、看多機としての強みを生かしてほしい。 解決すべき課題を把握するには、出来ない状態だけではなく、悪化する原因背景を探り、その結果を両職種 	<ul style="list-style-type: none"> 「介護職と看護職種間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	およ そ でき て い る	あ ま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
						で共有することが必要です。ミーティングなどで情報共有していただければと思います。	
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> 本人の役割や本人の意欲を高める支援内容となる計画の作成を引き続きお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> 小さなことでも、自立支援の視点で本人が望む生活が分かる計画の作成を継続して下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
〔具体的な状況・取組内容〕							
・日頃より本人、家族の意向を確認する意識をもち、その中で起こりえるリスクも共有していくように努めている。多職種の見点でリスク管理、情報共有し計画に反映している。							
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
〔具体的な状況・取組内容〕							
・日々の利用者状況を朝、随時のミーティングで共有、また家族より送迎時、訪問時に申送り等で引き継ぎを受け、変化がある時は計画変更している。							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	○				質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	○				質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、 疾病予防・病状の予後予測・ 心身の機能の維持回復など の観点から、情報提供や提案 等を行っている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴 等について、分かりやすく説明 し、利用者等の理解を得て いる		○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通の人にとって、専門的な事は理解できないことが多いので、複数回の説明は必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通の人にとって、専門的な事は理解できないことが多いので、複数回の説明は必要だと思う。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・1度の訪問や説明で十分でないと感じた時は、複数回訪問等し説明している。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通の人にとって、専門的な事は理解できないことが多いので、複数回の説明は必要だと思う。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護職が利用開始前、訪問時に説明している。必要があれば複数回説明している。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	○				質問はなし	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月本人と家族の意向を確認しながら予定を立てている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている			○		<p>・多職種で連携し、利用者が在宅で暮らしていけるのか検討してほしい。</p> <p>・今後、より改善に向け分析すると思います。</p> <p>・意向確認がきちんと取れていると思いますので、今後も話し合いの機会が充実できることで、より取り組んでいけると思います。</p>	<p>✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します</p>
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	○				<p>・今後より充実させていって下さい。</p>	<p>✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○				質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		○			・アセスメントの共有に活かしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○				<ul style="list-style-type: none"> 最大の強みだと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・金上病院が協力医療機関となっている為急変時等に連携が取れている。 					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている			○		<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の中では、地域からの情報の共有を行っているので、今後より充実していける様に、活用して行ってほしいと思う。 ・介護保険外サービス等の活用事例を運営推進会議の中で報告すると、色々な情報が構成員から提供されると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で情報提供や共有を通して、インフォーマルサービスの活用をしているが、今後はよりサービスの情報収集を行い活用できるようにしていく。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○			質問はなし	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎回、運営推進会議の議事録を作成しており、ファイリングしている。議事録は必要に応じては口頭で情報伝達、発信している。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		○			・機会を作り、参加します。	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎月広報紙を発行し、事業所の取り組み等を地区の回覧板や自治センター、保健福祉センター等にも置かせてもらい報告している。 ・月に1度タンポポ café を開催し、誰でも気軽に立ち寄れるよう開放している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○				質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○			・受け入れ実績はないようですが、どのような受け入れ体制が整っているのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○				質問はなし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○		<ul style="list-style-type: none"> 行政からも方針を示していく必要があると感じました。 市として、第七期計画では「自立支援・介護予防の強化」「地域包括ケアシステムの深化・促進」「認知症施策の促進」の3つを重点に介護保険事業に取り組んでいます。市のホームページにも記載しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				<ul style="list-style-type: none"> 今後とも市内全域での幅広いサービス提供をお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている				○	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティング等の話し合いを活用しながら、地域での問題等を見つけていき、改善策についての検討ができるように、課題の提起までできるような体制をお願いしたい。包括ケアに向けて、共に考える機会になっていると思います。 ・事業所が感じている課題が地域の課題であることが多いので、運営推進会議で報告していただくとよりいいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている				○	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を地域に発信し、住民の方にはどんな事ができるのか、理解を深めていける機会を設ける事が良いと思うが、その一つが運営推進会議だと思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなど

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							の役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・計画の達成に向け、サービス提供している。計画の変更の必要性がある方はその都度見直しをかけ、変更し達成に向け取り組んでいる。	・目標が達成されれば次のステップになる為の変更や継続の場合も目標の妥当性を再確認していただければと思います。	✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている ② 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日中だけではなく、夜間帯も看護のコール対応、定期的、随時での訪問も行っているが、今後は更に柔軟に対応できるようにより体制整備していく。	質問はなし	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	① 1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・これまでの看取りのケースは12件。看取り後ご家族から頂いた言葉から安心感が得られるようにできていたと判断した。	質問はなし	✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」